

多様な仲間が育ててくれた



「勉強でも仕事でも、目標を設定して乗り越えていくのが楽しい」と言う米良はるかさん

きで、テスト勉強もゲームをクリアするように楽しむタイプ。中学時代の家庭教師だった慶応大生へのあこがれもあり、慶応大学経済学部へ。

幼稚園から大学院までを擁する成城学園の歴史は1917年、小学校創設から始まった。中学校は6年間の一貫教育。

叶えたい夢や取り組みにかかるお金をインターネット上で募るしくみ、クラウドファンディングの「READYFOR」。代表取締役の米良はるかさん(28、2006年卒)は小学校から高校まで成城学園で過ごした。大学まで進める環境のため、受験勉強とは別の、体験学習や演劇などにのびのび取り組む校風を楽しんだ。

高校2年の時、「外の世界を見たい」と受験を決めた。もともと勉強好

前に見学した体育祭で、幼稚園児から大学生までが共に競技する一体感が、強く印象に残ったという。

中学でも高校でも、生徒たちは年齢や性別の違いに関係なく仲が良かった。保護者とも距離が近く、友達の家で遊ぶと父や母も輪に入るのが当たり前。「写真のことはカメラマンのあのパパに聞こう」という具合に、様々なプロの大人と直接話げできました。友達も保護者にも育ててもらったと感じます」

いざいざもあった。中学1年の時、クラスの男子に仲間はすれにされた。「それなら女の子と遊べはいいや、と楽しく過ごしました」。悩むより、どうすれば楽しめるかを考えてきた。

悪いことをしても、先生たちはいきなりルールを押しつけることはな

く、繰り返した時には厳しく罰せられた。「善しあしをまず自分で考えさせてくれた。今考えると、すごく大事なことでした」

大学卒業後、銀行やシンクタンクを経て、父が創業した日能研関東へ。「成城で過ごした学生時代はとても充実していました。当時の自分に声をかけられるとしたら、『そのままでいいよ』と言います」



小嶋隆さん。「成城の仲間は、今でも誰かが声をかけると20人くらいすぐに集まります」